

*NEWSLETTER*  
*of*  
*The Japanese Society for Applied Animal Behaviour*  
*No.21, August 2010*

◇ 2010 ISAE 評議員会 (Council Meeting) & 総会 (Annual General Meeting) 報告

ISAE 東アジア地区担当 (Regional Secretary (East Asia)) 植竹勝治 (麻布大)

2010 年度の ISAE 評議員会は、2010 年 8 月 3 日にスウェーデン・Uppsala の Uppsala Concert and Congress Hall7階 K2 会議室において、Sandlilands 会長をはじめとする幹事・評議員 12 名が出席して、途中に昼食と午前・午後の休憩を挟み、朝 9 時から夕方 16 時半まで行われた。



近藤前担当より会議時間が長いことを事前に聞いており、それなりに覚悟して臨んだこともあってか、はたまた昼食が予想を遙かに上回る豪華なコースランチであったため、疲れがそこで一度リセットされたのか、実際の時間よりはむしろ短く感じたほどであった。また評議員会での議論を受けて開催された総会は、学会 3 日目の 8 月 6 日の 16 時

半から 18 時にかけて、6階 Main hall で開催された(画像参照)。両会議の議題は、各幹事報告を中心に 17 題にも及ぶが、ここでは日本の ISAE 一般会員に関連が深い(関心がある)と思われる事項に絞って報告を行うことにする。

### 1. OIE による ISAE の Animal Welfare (AW) 専門家団体としての認定

OIE が ISAE を AW の専門家団体として認めるためには、ISAE の代表団がパリの OIE 本部を訪問し、その“国際的影響力”を示すことが必要であるとの OIE 側からの要請を受け、欧州以外の地域(北米、南米、アジアと可能であればアフリカ)からの代表を含め訪問団を組織することになった。そこで評議員会の席上、アジア地区からの代表として東北大学の佐藤衆介先生を推薦させて頂いた。(OIE からの要請内容は事前に配布された(とはいっても会議3日前であったが)評議員会資料に載っていたが、具体的な人選が行われるとは聞いていなかったため、佐藤先生ご本人の意向を確認することなくその場で勝手に推薦させて頂きました。Sandlilands 会長より正式に打診がありましたら、ご検討のほどをよろしく願いたします。)

## 2. 2011 年以降の ISAE 開催地

既に開催が確定していた 2011 年 Indianapolis (USA)、2012 年 Vienna (オーストリア)、2016 年 Edinburgh (UK) に加え、新たに 2014 年 Vitoria-Gasteiz (スペイン) での開催が了承された。ちなみに開催時期については、欧州の大学の学年暦や夏季休暇との関係で、7 月末から 8 月上旬を、また会場には交通の便の良いところを選定してもらうよう各 Local Organizer に要請することになった。問題は 2013 年と 2015 年の欧州以外での開催 (現在は偶数年が欧州、奇数年が欧州以外で開催することになっている) で、Swanson 担当副会長からの要請を受けて 2 月 16 日付けで東アジア地区会員用 ML に送信した開催地打診メールに対して、東アジア地区からインドが立候補したが、いかんせんインドには現在 3 名しか会員がいないことから、Local Organizer、特に Scientific Committee を組織できるか、とても不安な状況にある。そこで評議員会では 2013 年については別の地域に開催を要請することとなり、総会までの間に行われた Swanson 副会長による調整 (というより一本釣り) で、ブラジルでの 2 度目 (1 回目は 2000 年、13 年ぶり) の開催となった。2015 年のインドでの開催は、当該国における会員数を増やす良い機会と前向きに捉える意見 (特に Broom 氏) がある一方で、5 年後は少々早すぎるとの危惧が依然としてある。USA も 2001 年の Davis での開催から 10 年後の来年 2011 年に 2 度目の開催を迎える。これらの情勢から、誰も面と向かっては言わないが、2015 年はアジア地域での開催に期待する空気が強い。となるとアジアで最大 (というより大半の 7 割以上) の会員数を誇る日本から選出されている地域担当としては一肌脱ぐ覚悟を決めざるを得ない雰囲気であり、総会後に Swanson 副会長に対して、日本での 10 年ぶりの開催を検討し、次回 (来年 1 月を予定) の評議員会 (Web-meeting) までに結果を報告する旨申し出た (こちらも行前には、欧州以外の地域での開催地選定がこれほどまでに逼迫しているとは正直予想だにもしていませんでしたので、事前の相談もなしに申し訳ありません)。申し出た際の Swanson 副会長とのやり取りから類推すると、できれば 2015 年は日本で開催してもらい、次のアジア地域での開催候補地をインドとして、そこに標準を合わせて同国での会員数を増やす手立てを講じることがベターと期待しているようであった。以上が評議員会から総会にかけての将来の開催地を巡る顛末で、ISAE 東アジア地区担当として、今後、応用動物行動学会には 2015 年の日本開催とインドでの会員数増加策を検討するに当たりご協力をお願いすることになりますが、何卒ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

## 3. 会員数と会費滞納者の除籍処分 (要注意!!!)

昨年度の総会から今年度の総会までに 115 名もの新規入会 (一昨年度から昨年度までの 72 名から大幅アップ) があり、イラン、アイスランドなど新たな国が加わったものの、2010 年度までの年会費完納者は 19 カ国 598 名と昨年度の総会報告より 43 名減であることが報告された。これは昨年の総会で決まった年会費滞納者を除籍処分とする措置を実行に移した結果である。ただし、直ちに除籍するのではなく、一定期間督促を行った後、それでも納入されなければ処分を行うものである (滞納期間が 2 年までは Additional Members として別名簿に掲載し、会費が納入されれば会員名簿に復帰。3 年滞納で強制除籍処分)。滞納者に対して、今後数ヵ月の以内に、会員担当幹事の Spooler 氏からメール

で督促の通知が届くので、思い当たる人は見逃さずに確認して納入するようにして下さい。

#### 4. Applied Animal Behaviour Science (AABS)の年間購読料

Elsevierとの協議により、電子ジャーナルのみの購読料を34ポンド、冊子体と電子ジャーナル併用での購読料を95ポンドとすることが報告された。

#### 5. その他

渡航費用と参加費が高額なため、途上国はもとより、欧州でも学生などは参加が難しい。そこで将来的に YouTube などを利用した Web での学会参加・発表を認めることを検討して欲しいとの要望が総会で出され、今後検討していくこととなった。個人的には学会は発表さえすればそれで良いというものでは無いと思うが、皆さんはどのようにお考えになるであろうか。いずれ総会の議決にかかるかもしれないので、その時のために意見をまとめておいてください。

評議員会と総会報告は以上であるが、蛇足として、今回の日本からの参加者の中では私が最年長であった。個人的にはかなりショックであったが(とはいえ時が経つのを止めるべくもないが)、霊長研の山梨さんから別途報告があると思うが、バンケットの地域別対抗余興大会で、このヤングジャパンが栄えある第1位を獲得した。キャスト・スタッフとしては、びびる大木似の司会役の霊長研・目黒君、三谷幸喜ばりの脚本能力を発揮した東海大・伊藤先生、その伊藤先生と二人羽織でペアを組み、佐藤浩市並のストイックな役者魂をみせた信大・竹田先生、そして何よりオフロードウェイならぬ主催者からチームリーダーに抜擢され、みずからもウェイトレス役を助演した霊長研・山梨さん(学会中に ISAE に新規加入申請)を含む、Uppsala パフェーム3人娘の農工大・安食さん、信大・鈴木さんである。今年はサッカー日本代表がワールドカップでベスト16入りを果たし世間の脚光を浴びたが、この夏の ISAE スウェーデン大会は、応動行動学会のヤングジャパンが、これまでの名だたる諸先輩方も成しえなかった“世界の頂点”に立った記念すべき大会となった。若者達よ、来年も大会を盛り上げよう!



Good job! Young Japan!!

#### ◇ ISAE 参加報告～“学会賞”を取りました

京都大学霊長類研究所 山梨裕美

明るい北欧の夏の夜、銀色に輝く芸術的なコンサートホール。初めての ISAE にドキドキしながらレジストレーションになんとか滑り込みました。最も大切なものが入っているという封筒を開けてみると、数枚の書類が。学会参加証明書と、Mission Possible……?書かれていたのは「あなたは日本のチームリーダーに選ばれました。バンケットで文化を紹介するような出し物をしてください」もう日本に帰ろうか。こんなところから ISAE は始まりました。

2010年8月3日から8月7日にかけてスウェーデン Uppsala で第44回国際応用動物行動学会が開催されました。招待講演者7名、口頭発表者92名、ポスター発表者135名が集まりました。所属機関はヨーロッパ(特にスカンディナヴィア半島)からの参加者が多く、アジアからの参加者のほとんどが日本人で合計11名でした。今回のテーマは”Coping in Large Groups”でしたが、発表内容は多岐に渡り、インターディシプリナリな学問としての魅力が満載でした。以下、セッションごとに詳細をレポートしていこうと思います。

1日の始まりは招待講演です。初日には Wood-Gush Memorial Lecture として、C. Hemelrijk 博士が Self-organization of social systems of animals というタイトルで講演されました。魚や鳥などにおける移動中の群れの形や、霊長類における群れの性質(専制主義的・平等主義的)を決定する要因を、シミュレーションを用いて検討し、さらに実際の動物の観察で検証した研究について話されました。たとえば魚の群れは長方形型で前方が高密度になっているそうで、従来これは捕食回避の観点から考えられてきました。しかし Hemelrijk 博士のグループは、こうした形質が実は移動スピードが遅くなる際の衝突を防ごうとしたときに生まれてきたのではないかという仮説をシミュレーションから導きました。そして実際にボラにおいて類似のプロセスを発見したということです。このような複雑な動物社会や行動のメカニズムに面白い視点を与えるシミュレーション手法を、面積や資源量などの項目を加えたりして、飼育管理にも応用できないだろうか、などと勝手に想像が膨らみました。また、講演の最初には Wood-Gush 博士が初めて森の中にブタを放し、追跡したときのエピソードもありました。そのときの興奮の様子が伝わってきて、研究者の根本はやはり溢れ出る好奇心だと感じました。

その他の招待講演では社会的場面での適応的・不適応的なストレスについて、というものから常同行動の脳機能理解、さらに社会ネットワーク分析の応用した研究からさらに意識についてなど幅広い分野の興味深いお話を聞くことができました。

初日にはワークショップが5つ開催されました。わたしはそのうちの The animal welfare conservation interface というセッションに参加しました。発表はイギリスでの動物園監査の結果や、野生動物を再導入する際の個性と生存の関係といった具体的な事例の紹介から、野生動物における福祉とは?といった少々哲学的なものまで様々でした。グループの維持に最も重きを据える保全の場面と、個体の福祉に重きを据える飼育管理の場面。個体の福祉を保全の場面にも考慮すべきなのか、また飼育下から野生下へと再導入される場合に個体の福祉は向上するのだろうか。ディスカッションは盛り上がり、保全と福祉という似て否なる分野の協力体制は今後どのようにおこなわれていくだろうか、たいへん興味深く、アドレナリンが放出されました。

研究発表セッションは社会群への適応、認知と感情、痛み、人と動物の関係、家畜化の影響、初期経験と育児行動、行動と遺伝、施設と外へのアクセス、常同行動、採食行動、オスの繁殖といったセッションに分かれていました。個人的に面白かったのは、尾かじりをするブタを予め行動要素から予測しようと

するものや、羽つきをする・されるニワトリにおいて視床下部での遺伝子の発現が違うといったものです。また、各種ホルモンはもちろんのこと、ウシで fNIRs を用いたり、ニワトリの目の温度を用いたりなど手法の多様性には目をみはりました。さらに産んだ卵に食べたものが反映されやすいペキンダックで、卵に模様を浮かびあがらせて産んだ個体を特定するといった家畜ならではの手法も新鮮でおもしろかったです。

ポスターセッションでは認知実験がチンパンジーの行動へ及ぼす影響について発表しました。少数派の野生動物(そして唯一のチンパンジー)ではありましたが、野生との直接比較という手法や常同行動の意外な出方に興味を持ってくださる方もおり、有益なディスカッションもできました。総じて今後野生動物の福祉を「科学」していく上で、幅広い視点から勉強できたように思います。

最後に、忘れられない思い出となった Mission Possible についてです。8月6日の晩、由緒正しき美しいウプサラ城にて、日本人チームは二人羽織小喜劇をすることにしました。プロのバンドの演奏の後という恐ろしい順番でしたが、脚本家伊藤先生と主役・竹田先生の名コンビネーション、小倉さんの司会、ガールズ 3 人(鈴木・安喰・山梨)の給仕、さらに植竹先生と二宮先生のサポートのかがりがあり、なんと日本チームは学会賞をいただきました! 劇は想像以上にうけ、多くの方々から翌日までほめていただきました。参加者の皆様のおかげで、本当に楽しく充実した時間を過ごせました。本当にありがとうございました。

次回はアメリカインディアナ州にておこなわれます。テーマも動物園動物や実験動物の福祉ということも含まれており、また違った雰囲気を楽しめそうです。また次回も参加できるように、精進していきたいと思えます。



チームジャパンのメンバー・ウプサラ城にて(左上より:小倉・安喰・伊藤・二宮・竹田・植竹 左下より:鈴木・山梨【敬称略】)



◇ 複合生態フィールド教育研究センター 第 8 回国際シンポジウム(The 8th International Symposium on Integrated Field Science (8th IS-IFS)) のご案内

二宮 茂(東北大)

持続的な家畜生産のための先端研究:

ヒト-動物-環境の相互作用

Advanced Studies on Sustainable Animal Production: Interrelationships among  
Human, Animal and Environment

日時:平成 22 年 9 月 18 日(土)ー20 日(月)

場所:東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟6F 大ホール

(19 日午後から 20 日はエクスカージョンを予定しています)

主催:東北大学大学院農学研究科 附属複合生態フィールド教育研究センター

コンポスト総合研究プロジェクト(PICS)

東北大学生態適応グローバル GCOE

文部科学省若手研究者海外派遣事業(若手大航海 SAP)

複合生態フィールド教育研究センターは、農学研究科と連携して、個別の生態系における研究をさらに深化させ、さらに、より複合的視野から隣接する生態系も含めた総合的な研究の展開を目指しています。そのために、いくつかの研究コアを設置し、それぞれの研究コアが中心となって、国内外の研究者を招聘して国際ワークショップを開催しています。

本年度は、「中山間地草食動物研究コア」が中核となり、コンポスト総合研究プロジェクト、東北大学「生態適応グローバル COE」文部科学省若手研究者海外派遣事業と共催して、持続的家畜生産に向けたヒト-動物-環境間の相互作用に関するワークショップを開催します。

本シンポジウムでは、ポスターセッションを設けます。本ワークショップに関連するものであれば、内容は問いません。多くの方のご参加をお待ちしています。

<シンポジウムへの参加申し込み>

○シンポジウムへの参加を希望される方は、①氏名、および②所属を電子メールで大会事務局 小倉 (is-ifs@bios.tohoku.ac.jp)までお知らせ下さい。参加費は無料です。

○また、ポスター発表および交流会への参加ご希望の方は、その旨お知らせ下さい。

<ポスター発表申し込み>

○ポスター発表希望の方は、①氏名、②所属および③発表タイトルを併せてお知らせ下さい。講演要旨

(1 ページ)の作成要領をお送りします。場所の関係で発表できる数に限りがありますのでお早めにお知らせ下さい。講演要旨の提出期限は平成 22 年 8 月 18 日(水)です。

○今回のシンポジウムでは、ポスター発表の中から優れた発表を事務局が選考し、“IS-IFS Best Presentation Award”を授与します。奮ってご参加ください。また、それにあたり、ポスター発表者には 3 分間の口頭説明と質疑応答をしていただきます。

<交流会>

9 月 18 日(土) 午後 7 時～9 時 ホテル JAL シティ仙台  
ぜひご参加ください。

<参加申し込み・問い合わせ先>

複合生態フィールド教育研究センター(鳴子)  
陸圏生態学分野 准教授 小倉 振一郎(おぐら しんいちろう)  
is-ifs@bios.tohoku.ac.jp

<シンポジウムのプログラム>

プログラム(予定)および発表方法等の情報は、東北大学大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センターホームページ上からダウンロードできます。

<http://www.agri.tohoku.ac.jp/field/topix/g316mh0000000ju.html>

以上

## ◇ 2010 年度 秋季シンポジウムのお知らせ

シンポジウム担当幹事 青山真人(宇都宮大学)

来る 11 月 5-6 日、酪農学園大学において、農業施設学会、日本家畜管理学会との共催で、畜産におけるアニマルウェルフェアに関するシンポジウムを開催致します。多くの方々のご来聴をお待ち申し上げます。



## 畜産におけるアニマルウェルフェアの実際

### 開催要領

#### 1. 開催趣旨

英国政府により設立された農用動物福祉会議による 5 つの自由を基準としたアニマルウェルフェア

に配慮した飼養管理が欧米ですでに実践され、OIE(世界動物保健機関)もアニマルウェルフェアをできるだけ科学的に捉えたガイドラインを検討している。このような世界的な動向のなかで日本においても「快適性に配慮した飼養管理」として(社)畜産技術協会が指針を出し始めている。そこでアニマルウェルフェアを保証する条件である「5つの自由」、①飢えと渇きからの自由、②疾病や怪我からの自由、③不快環境からの自由、④正常行動を発現する自由、⑤恐怖や苦悩からの自由、に対して各側面での日本の畜産における課題を整理する。

第一線で活躍されている専門家の皆様から話題を提供して頂き討議するとともに、アニマルウェルフェアを実践している農場を視察する。

2. 開催日時:11月5日(金)~6日(土)

3. 開催場所:酪農学園大学

4. 主催:農業施設学会、日本家畜管理学会、応用動物行動学会

5. 参加費:4000円(資料代、バス代)、懇親会:3500円

6. プログラム

第1日目 講演会

13:30 - 13:40 挨拶:農業施設学会 酪農学園大学 干場信司教授

13:40 - 14:10 (1) 畜産におけるアニマルウェルフェアに関する国内外の状況  
東北大学 佐藤衆介教授

14:10 - 14:40 (2) 「快適牛舎」における施設構造  
酪農学園大学 高橋圭二教授

14:40 - 15:10 (3) 生産獣医療の中でのアニマルウェルフェアの位置づけ  
岩手大学 岡田啓司准教授

15:10 - 15:20 休憩

15:20 - 15:50 (4) 「正常行動」の発現を保障する飼育環境  
信州大学 竹田謙一准教授

15:50 - 16:20 (5) 「管理者に対する牛の恐怖の軽減」  
畜産草地研究所 小迫孝実科長

16:20 - 16:30 休憩

16:30 - 17:30 総合討論 座長 北海道大学 近藤誠司教授

18:15 懇親会

第2日目 見学会

アニマルウェルフェア実践農場の見学 (変更の可能性有り)

「総合評価法」の解説・指導 帯広畜産大学 瀬尾哲也助教

申込、問い合わせ先

農業施設学会シンポジウム担当:石田 ishida32@affrc.go.jp Tel:029-838-8678



#### ◇ 編集後記

春からの口蹄疫もやっと終息宣言が出て、皆様もほっとされたことと思いますが、それに続く連日の猛暑で、各地の動物たちへの影響が懸念されます。皆様のところではいかがでしょうか。今回はスウェーデンで開催された ISAE2010 の報告を中心にお届けいたしました。次号は秋に開催されます各種シンポジウム等のご報告をできればと考えております。また、ニュースレター記事は随時募集しておりますので、お気軽にご連絡ください。(ニュースレター担当: 茨城大小針)

